

令和2年度 第13回全体庁議（12月25日開催）

区分	審議・報告	案件名 (担当部)	(1) 帯広市医師会立看護学校の整備について[市民福祉部]
----	-------	--------------	-------------------------------

■ 提案・報告の趣旨

新たな看護師養成所(3年課程)の開設について、帯広市医師会から帯広市に対し、養成所整備や建設用地に対する支援等の要請、計画概要の提示があったことから、十勝管内における看護師養成の現状、課題と同計画の内容等を令和3年1月18日の厚生委員会に報告するもの。

■ 提案・報告の主な内容(概要)

1 十勝医療圏域における看護師養成の現状と課題

(1) 十勝管内における看護師養成の現状

十勝管内(帯広市内)には3つの養成所があり、地元養成・地元就職の機能が発揮されている。各養成機関の傾向としては、准看護師養成校においては、進学率が高く、管外へ転出している一方、就職を希望する学生の多くが市内医療機関等に就職している。他の3年課程養成校においては、就職先が特定の医療機関に偏る傾向がある。地元養成機関による管内の就職割合は、42.3%にとどまっている状況である。

(2) 看護師を取り巻く地域課題

看護師は、医療機関のみならず福祉施設、自治体など、就業先は多岐にわたり、各分野で重要な役割を担っているが、十勝医療圏における人口10万人対比の看護師就業数は、道内平均を下回り、求人倍率は2.4倍、充足率9.9%と、看護師不足の状況にある。十勝圏における看護職員需給推計では、2025年には、看護師不足がさらに深刻になることが想定され、特に、訪問看護事業所や在宅介護分野での人材不足が懸念される。今後、看護師の地元養成・地元就職に向けた看護師養成の重要性は、さらに高まることが予測される。

2 帯広市医師会看護師養成所(3年課程)の計画概要等

(1) 設置の趣旨及び必要性

- ・准看護師養成校を令和4年度末で閉校し、新たに看護師養成所(3年課程)を設立
- ・地域に求められる看護師を地元で養成し、地元で輩出
- ・在宅医療や地域包括ケアなど多様な場で、質の高いケアを提供できる実践力の養成が必要
- ・十勝出身者の十勝進学自給率は43.6%であり、看護系の大学進学者を含め、100人近くが流出している現状
- ・看護師の地域偏在の解消
- ・第7期総合計画 施策6 医療体制の安定的確保等への対応

(2) 帯広市医師会立看護師養成所(3年課程)概要(予定)

- 【開校】 令和5年4月
- 【養成課程】 看護学科3年課程 全日制
- 【定員】 1学年につき35人

■ 今後のスケジュール

今後、医師会のスケジュールを踏まえつつ、北海道との協議状況や計画内容を確認しながら、帯広市における「養成所整備に対する支援」および「建設用地に対する支援」について検討を進めていく。

【帯広市医師会の予定】

- ・～令和3年3月 整備基本計画(案)作成
 - ・～令和3年9月 北海道へ「養成所設置計画書(土地の契約書添付)」「専修学校設置認可計画書」提出
 - ・～令和4年3月 「養成所設置計画書審査結果」受理 北海道予算計上(予定)
 - ・令和4年4月 北海道の補助指令、建設着工等
 - ・令和4年4月～ 「養成所指定申請書」提出、「令和5年度学生募集」開始
 - ・～令和4年9月 「専修学校設置認可申請書」提出
 - ・～令和5年3月 「養成所指定通知書」「専修学校設置認可通知書」受理、准看護師養成校閉校
 - ・令和5年4月 帯広市医師会看護師養成所(3年課程)開校
- ※ この間、適宜、所管委員会等で報告を行う。

■ 審議結果

- ・同内容で、令和3年1月18日厚生委員会へ報告することで了承された。

■ その他、指摘事項等

・特になし